

< 2 >

復興計画策定への女性委員の参画 ～岩手県釜石市～

1 調査対象と取組の概要

ヒアリング先	岩手県釜石市総務企画部 総合政策課（男女共同参画室）
取組のポイント	<ul style="list-style-type: none">▶ 平成 23 年 12 月に、32 年までの 10 年計画として、「釜石市復興まちづくり基本計画」を策定した。計画策定にあたり、同年 5 月から「復興まちづくり委員会」を立ち上げ、議論を重ねた。委員会は 45 名の委員から成り、うち女性は 8 名であった。▶ 委員は様々な分野からバランスよく選定することを考え、関係団体に委員選出を依頼もしくは一般公募で募った。市の男女共同参画推進プランの目標である「審議会等における女性委員の比率を平成 25 年度までに 40%とする」の達成をめざし、団体への依頼においては、PTA や社会福祉協議会、母子保健推進員等の女性が主体的に活動している団体では、できるだけ女性を推薦いただくよう依頼した。▶ 復興基本計画第 2 部 6（「計画の推進」）の最初に、「市民総参加による復興の推進」という項があり、ここに「復興に向けては自助、共助の精神に基づき、男女共同参画のもと高齢者や障がい者、女性、子どもも含めた幅広い市民の参画のもとで、1 日も早い復興を目指した取組を推進」という文言が入った。また、子育て支援や見守り対策などが、具体的な施策として明文化された。これらは、女性の委員の参画があって検討されたことも影響していると思われる。▶ 復興まちづくり委員会終了後に再設置された「総合復興委員会」には、初めて女性から応募があり公募枠で 2 名の女性委員が選出されたり、団体の長などからなる女性の自主的な勉強会が結成されるなど、震災後、女性たちによる新しい動きがみられる。
ヒアリング日時	平成 25 年 1 月 29 日

2 東日本大震災後の状況

被災の状況

- ✓ 平成 24 年 8 月 17 日現在、釜石市の死亡者数は 888 名、行方不明者は 153 名である。避難者数は、最大で 9,883 名となった。

- ✓ 市内の家屋の約3割、浸水範囲の事業所のうち約6割、ほぼ全ての漁船が被災した。

復興・復旧の状況

- ✓ 市内のうち、21地区が被災した。漁村部、集落部16地区については、防災集団移転促進事業等を活用して住まいを高台移転する方向である。元の場所は、産業工業用地として活用していく予定である。市街地を中心とした5地区については、都市計画による土地区画整理事業等を活用し、土地のかさ上げなどによって現地再建する方向で考えている。
- ✓ 平成24年3月までに各地区の懇談会を重ね、土地利用についておおむね了解を得て、現在は、地権者との話し合いや事業を具体的に進めている。
- ✓ 市としては、被災した元の地区に戻って生活できるよう、面整備の推進と、自力再建支援、また地区ごとに復興公営住宅の整備を進めていくことを考えている。
- ✓ こうしたコミュニティ復興のために、地権者を集めた連絡会を作ったり、地権者、事業者、住民全てが入ったまちづくり協議会などの組織を作り、地区ごとに協議を重ねてまちづくり計画を作成しているところである。
- ✓ 比較的小さな集落では、平成25～26年度にかけて住宅の整備を進めていくが、市街地については面整備に時間がかかるので、平成29～30年頃までかかる。地区によって工程差が出てくることになる。
- ✓ 産業の復旧状況として、水産業関係は平成23年8月に市場が再開し、水揚げは可能となった。被災した漁船も復旧しつつある（1,692隻のうち768隻が復旧）。水産加工工場も16社のうち14社が操業を再開した。
- ✓ 商工業関係は、独立行政法人中小企業基盤整備機構（中小機構）の制度を活用し、同機構が市内に仮設の店舗や工場等を見て、事業者が無償で貸与している。現在、13か所221区画の仮設店舗、事業所、工場が整備されている。また、店舗や工場等を修繕できる事業者や全壊した事業者には、県及び市から補助金を出して、復旧を支援している。

3 活動・事業の内容

復興計画策定への女性の参画

- ✓ 市の復興まちづくり基本計画策定に当たり、平成23年5月から「復興まちづくり委員会」を立ち上げ、議論を重ね、同年12月に、32年までの10年計画として、「釜石市復興まちづくり基本計画」が策定された。
- ✓ 「復興まちづくり委員会」は45名の委員からなるが、うち女性は8名であった。元々条例に基づき設置されていた「総合復興審議会」（委員数約30名）を拡大し、まちづくり委員会の委員を決定した。計画策定後は、「復興まちづくり委員会」の委員を、再び「総合復興審議会」の委員として委嘱した。（期間は平成24年10月まで）
- ✓ 平成24年10月から設置された新しい総合復興審議会では、委員41名のうち、女性が

7名となっている。うち2名は一般公募である。

- ✓ 「復興まちづくり委員会」の委員は、地域、業種、分野など様々なところから選定したいと考え、関係団体に委員を依頼もしくは一般公募で募った。PTA や社会福祉協議会、母子保健推進員などの女性が主体的に活動している団体への依頼においては、女性候補がいる場合はできるだけ女性に、というお願いもした。結果的には、PTA、芸術文化協会、老人クラブ、社会福祉協議会、母子保健推進員、グリーン・ツーリズム関連団体、男女共同参画推進の活動を行う市民団体等から、女性委員が就任した。
- ✓ 市の男女共同参画推進プランでは、各審議会における女性委員の割合を4割以上とすることを目標にしていることから、復興まちづくり委員会の委員選定においても女性委員の参画拡大を図り、女性の意見が反映されるようなまちづくりを目指した。
- ✓ 震災以降、地元の声、女性の声を反映させようという機運があり、例えば防災会議に女性委員が登用されていなかったことも見直していった。市の各種審議会であれば、まだ女性が入ることができていない分野はあるが、どんな範囲でも女性の声を反映させていこうという意識がなされている。

復興基本計画の中に「女性の参画による計画の推進」が盛り込まれる

- ✓ 復興基本計画第2部6（「計画の推進」）の最初に、「市民総参加による復興の推進」という項があり、ここに「復興に向けては自助、共助の精神に基づき、男女共同参画のもと高齢者や障がい者、女性、子どもも含めた幅広い市民の参画のもとで、1日も早い復興を目指した取組を推進」という文言が盛り込まれた。これは、女性の委員の参画があつて検討されたことの影響もあると思われる。
- ✓ 釜石市は、製鉄所のまちとして栄えてきたが、「男性は働いて、女性は家を守る」という意識が長らく強い土地柄であった。少しずつ変わってきているが、意識的に女性の委員を入れたり、施策の文言として入れたりしていく必要がある。

復興に向けた具体的施策に女性の視点が反映される

- ✓ 復興まちづくり委員会には分野ごとに4つの部会（市民生活、保健福祉、産業振興、教育）があり、各部会に女性も参画し具体的な審議を行った。計画策定に当たって、女性から出された意見としては、以下のようなものがある。

復興基本計画「復興に向けての課題」について、女性委員から出された意見

課題の領域	女性委員から出された対応すべき課題・意見
1 新たな津波災害対策の構築	・災害弱者への対応 ・学校における児童生徒の避難対応
2 人口減少・少子高齢化への対応	・子育て環境づくりの充実 ・見守り対策の推進
3 交流人口の拡大への対応	・食、グリーンツーリズムなどでの体験活動での女性の活動の支援

4 産業の再生と雇用の場の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の就業機会の確保 ・女性の起業支援
5 安心できる暮らしの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・母子（父子）家庭対策 ・介護者ケア対策 ・見守り対策 など
6 次世代に継承する取組の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能や伝統行事等の継承
7 地域を支える人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ニーズに応じた女性の活動支援
8 地域資源を生かしたまちづくりの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・芸能文化、スポーツ活動の支援

4 活動・事業の成果と課題

一般公募から女性委員の選出、女性の自主的な勉強会の発足など女性による新しい動き

- ✓ 震災を契機に、市民の誰もが「自分ができることはなにか」という気持ちを持つようにならなってきた。こうした変化により、様々な場面で女性が積極的に活動するように風向きが変わってきている。
- ✓ 例えば、新しい総合振興審議会の委員に、一般公募から初めて女性の委員が2名選ばれた。以前は、一般公募に応募する女性自体がいなかったが、市政全般にも貢献したいとの意欲をもって応募してくれた。
- ✓ 震災後、教育、高齢者福祉ボランティア、グリーン・ツーリズム関連団体や男女共同参画推進の活動を行う市民団体の長などが集まって、女性の自主的な会も発足している。「明日へのかけはし女性の会」という名で、月1回程度勉強をしながら、まちの復興に向けて自分たちにできることを模索している。メンバーは14名で、半数以上が仮設住宅に住んでいる。市の復興計画や、高速道路の建設など市政全般について勉強を進めている。

「明日へのかけはしの会」の概要

設立までの経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年12月14日 「女性の会」準備スタート ・平成24年2月1日 「明日へのかけはしの会」発足
構成	<ul style="list-style-type: none"> ・代表1名、事務局1名、メンバー12名、合計14名
設立の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災で甚大な被害を受けたふるさと釜石を再生するため、女性の視点からこれからの復興まちづくりにおいて、意見交換ができる場を設けたい。 ・被災者の苦しみを理解できるのは、女性の強くてそして優しい気遣いだと思うことから被災者の話に耳を傾けて、まずは一歩ずつ釜石の街を再生させていきたい。 ・まずは勉強会中心だが、今後は復興に向けた何らかの事業を行いたいという意向を持っている。
今までの活動状	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年3月より勉強会を月1回程度開催。

況	<ul style="list-style-type: none"> ・内容は、釜石市担当職員を講師とした釜石市の現状や復興計画、道路事情等など。女性の視点からの復興まちづくりについて、行政と意見交換。
---	--

「何かしなくては」「何かしたい」という市民の思いにいかに応えられるか

- ✓ 震災を経て誰もが「何かしなくては」「何かしたい」という気持ちや機運はあるが、どこに属して何をやればいいのかというところが分からないでもいる。そうした市民の気持ちを大切にしながら、市として必要なことをアドバイスなどが出来たらと思っている。
- ✓ 県では、「男女共同参画サポーター養成講座」を行っており、昨年、釜石市からも2名受講し、サポーターとしての認定を受けた。この2名も含めて現在釜石市には16名のサポーター認定者が在住していることから、このサポーターを通じて何かできないかということも考えている。